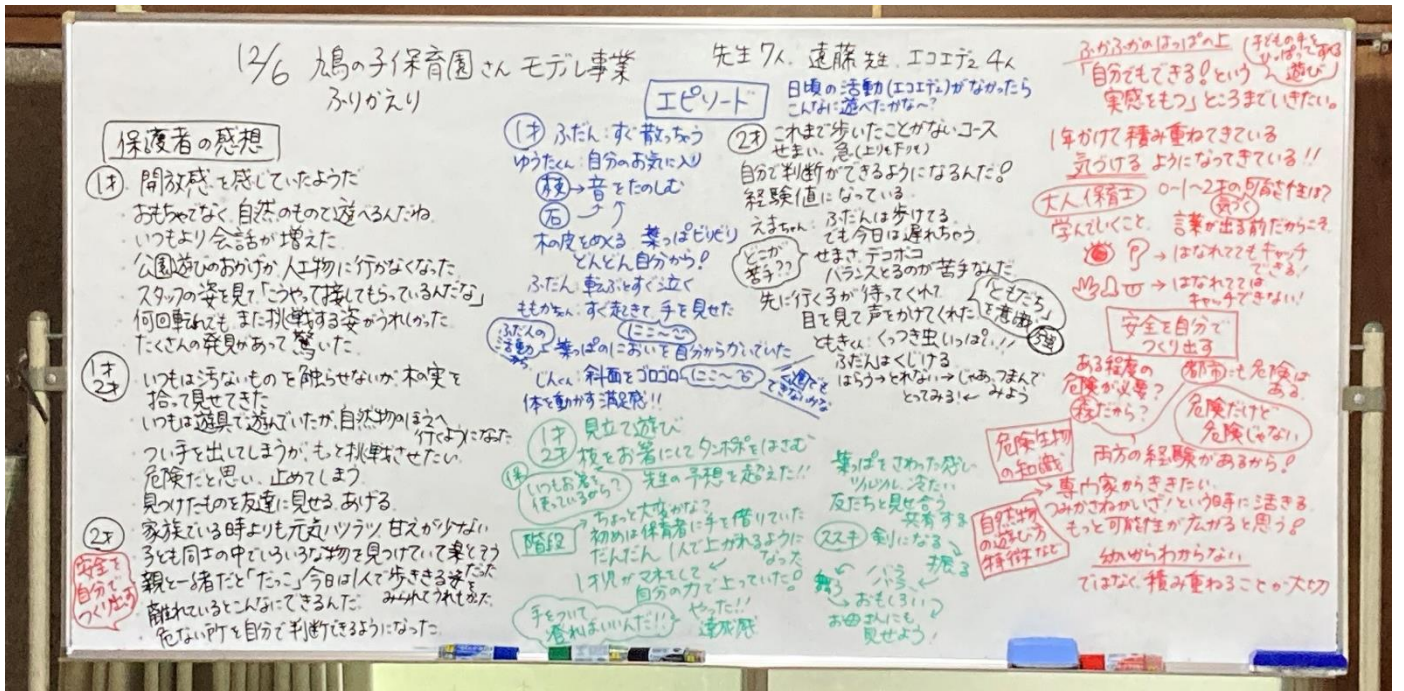


【鳩の子保育園】

●2021.12.06 ふりがえり (先生7名&エコエデュエコエデュスタッフ3名/遠藤知里先生)



*****ビデオ不調のため最初音声なし*****

◆エコエデュスタッフ②

1歳児さんチームお願いします。

◆先生⑥

普段は転んだりとかすると、子ども達は泣いちゃうんですけど、今日はアスファル

トじゃなかったというのもあって、転んでも、特にMちゃんはよく転んでいたんですけど、手を見せて、ニコってすごい笑って「痛くないよ」って教えてくれたりとか、草むらの中に座って、自然の中にいて楽しんでいる姿が見受けられたり、あとはエコエデュさんで学んだ、葉っぱの匂いを嗅ぐっていうのを自分からすぐにやっていて、日頃のエコエデュの活動を今日も同じようにやる事が出来ていたなというふうに思いました。

◆エコエデュスタッフ⑫

普段、公園だと、私達が企画するものが割と観察とか、物で遊ぶっていうことが多いんですけど。例えばJ君は本当は走り回りたい人なんです。身体をたくさん使いたい方かなと思って見てるんですけど、今日は地面の斜面を使って、ゴロゴロゴロって転がるのをやってみたら、すごくいい顔で笑って、転がっては私の顔を見てニコっと笑って、また転がって顔を見てニコって笑っている姿を見て、ああ、なんかこれ、公園で出来ないかなって思ったんですけど。身体を思い切り使うっていう事が出来ていたのかなと思いました。

◆園長先生

最後、側溝で思い切り遊んでいましたよね？

◆エコエデュスタッフ⑫

はい。思い切り遊んでましたね。

◆園長先生

なんか、先生が結構手を出したりしてたけど、あれもうちょっと見守ってても良かったと思う。確かに、あの側溝のあれが危ないけれども。

本当にすごかったよね。手、足、届かないぐらい、もうめいっぱい伸びてて。でも、自分で何とかしようとしていたから、あれは見守って欲しいなと思いました。せっかく自分で試して、やれたらすごい達成感持てるし、満足する。例えば山の上に登ってた時ね、危ないけど、いなくなっちゃったりすることはない。まあ、転げ落ちる可能性はあるかもしれないけど、先にごんごん行っちゃうんだけど、「危ない。そこでストップ」って言うと、一応止まるんですね。なので、まあそういうところを分かっているのだから、少し解放してあげる。せっかく自然の中で遊んでいるから、こちら意識してあげるっていうのと。



普段エコエデュの活動をしていなかったら、今日ポーンと自然の中に来てね、これだけ子ども達が遊べたかなってすごく考えています。日頃遊んでいるから、目の先に見えるものに手が伸びたり、走ったり出来る。そうじゃなかったら、あそこまで子ども達の姿が出て来ないかな、なんて思いました。

◆エコエデュスタッフ⑫

そうですね。デコボコの上を歩くだけでも楽しそうな、そんな姿が見られましたね。

◆園長先生

なので、本当に自然ってすごいな、なんて思いました。ただ山を歩いても、子ども達の興味や楽しさがどんどん湧き出て来る感じ。四季折々で感じた子ども達の姿を見たいな、なんて思いましたけどね。

◆エコエデュスタッフ②

ありがとうございます。じゃあ、1、2歳児チームのエピソードをお願いします。

◆先生④

草や葉っぱを使って、見立て遊びをやらせて頂きました。その中でも驚いたのが、草花を持ってお箸のようにして、そこにタンポポをつかんで見せてくれました。そのエピソードを後で保護者に伝えたところ、「家でもお箸使っているからかな」って、驚いて喜んでくれました。まさか、その発想が出ると思わなかったなので、こっちもすごい驚いたし、見せてくれた表情がすごい可愛いかったです。

◆先生⑤

あとは、今日は階段が子ども達が登るのにちょっと大変かなって思うようなところが多かったりして、子ども達も最初は保育者の方に手を繋ごうとして来たりしたんですけど、2歳児さんが一人で登っているところを見たら、それを1歳児さんが真似して、保育者の手を借りないで1人で登ったり、階段を降りたりとか、坂を下ったりしていて、そこで成長を感じられたなって思いました。いつもは公園とかでそういう場面があると、保育者も手を貸しちゃったりするので、自分で出来るってことが分かったので、次、もしそういう場面があったら、1人で出来るのを見守っていこうと思いました。

◆エコエデュスタッフ②

ありがとうございます。すごいね。

◆エコエデュスタッフ①

はじめに階段で、「もし転びそうになって危なくなったら、手をつけばいいんだよ」って言って登り始めた時に、「怖かったらくまさんになって、こう手をついて登ってもいいんだからね」って言ったら、I君はそれが嬉しかったみたいで、手とかも汚れながら登って、先頭で。そうしたら、登った瞬間に「やった！やった！」みたいな感じで下に見せてくれて、そこから他の子も「探検に行くぞー！」っていう感じで続いていって。I君のおかげでみんなが頑張っけて登ってくれました。

はじめ、何を見つけてくれるかなと思っていたんですけど、アオキの葉っぱを「1枚もらってみる？」って言うと、みんな「冷たい」とか、「ツルツル」とか言って、友達と一緒に見せあったりするというのが上手になったなと思いました。

あとは、降りて来てから広い原っぱに出ると、力いっぱい遊ぶ。走り回ったりとか、やっぱり気持ちいいみたいで、段々こうヒートアップして来て、ちょっと戦いごっこみたいな、ススキが剣になったり、はじめ引っ張り合いっこみたいな感じだったのが、途中で剣みたいになって、穂がバラバラバラって散るのが楽しくなって、それをお友達にやってあげたり、後でお母さんにも見せてあげてました。

やっぱり1人が楽しむと、一緒になってみんなが付いて来て遊べたので、見つけたものとかで共有してそのうち一緒に遊べるんじゃないかなと思いました。

◆エコエデュスタッフ②

ありがとうございます。やっぱり一つのきっかけが次々にいろんなことに発展していくんですね。じゃあ、2歳児チームさん、お願いします。

◆先生⑦

2歳児は、全体での様子は一つと、個人が一つ、印象に残ったものがあつたんですけど。まず全体で、今日歩かせてもらったコースがこれまで子ども達が歩いたことの無いようなコースでした。登りも下りも道の幅が狭い、つつい大人が手を出したくなるような道で。一回、エコエデュのスタッフさんがRちゃんに「ここから先はダメだよ」って、たぶん転がって落ちて行っちゃうところを止めてくれたんですけど、いつ声と手を出していいかなって思うぐらい迷う幅の道もいくつか通らせてもらっていて、そ



ここで気がついたのが、大人が声を出さなくても、2歳ぐらいになって来て、歩く経験をしている子達だと、危ないことが判断できるようになっていて、例えばS君はその道に来ると、カニ歩きのように身体の向きを変えて、横向きにサッサって歩くことを進んでしていました。他の子達も、そこまでは足取り良く歩いてても、危ないなって私が思う道に差し掛かるとペースダウンをしてました。やっぱり声をかけないで待つって大事だなって。子どもはたぶん自分の視覚と経験から判断してるなっていうのを、今日山道を歩かせてもらって感じました。

あとは、5人居た中で一番月齢の低いEちゃんなんですけど、普段、公道を歩いている時はなんか困るなとか、遅いなっていうのはあまり気にならなかったんですけど、今日山道を歩いたら、だんとつで離れてしまうんですよ。追いついてもまたすぐく差が出てしまう。だから一見歩けているなって思っている子も、やはり性格で怖いとか、そういうのも多少関係するのかもしれないんですけど、道を変えてみると、意外に苦手なところって見えてくるなって。で、どこが苦手なんだろうって見ていたら、バランスを取るのが苦手なんだなって分かりました。なんか、Rちゃんの方が背は低くて、一見歩けなさそうに見えるんですけど、あの子は体幹がいいのでどんどん進めるんですね。ただ、Eちゃんは、普段本当に困ったことがなかったの、今日参加しなければ分からなかったんですけど、ああいうボコボコした道とか、狭さが変わるっていうのがちょっと苦手なのかなって。なので、普段の保育の中で、デコボコ歩きだったり、運動遊びでちょっと上がる下がるを取り入れてあげたりとか、いろんな歩行をさせてあげたいなって思いました。

ただ、そんな中ですごく嬉しかったのが、先頭集団を歩いている子達が、必ず振り返ってくれるんですね。「Eちゃん、来たかな?」とか、「先生、見える?」とか、みんな目を合わせてくれるんですよ。なんかそういうところで、2歳さんの友達っていう存在、なんか、そこが1歳さんと2歳さんでちょっと違いがあるのかなって、今、全体の話聞いていて思いました。

個人的にすごいなって思った姿もたくさんあるんですけど、一個って言うと、T君なんですけど、泣いてスタートしたお子さんなんですけど、T君って一つのきっかけでとても泣いて、そこから切り替えが難しかったり、かと思



えば切り替えが出来たりって、波のすごいあるお子さんなんですけど、今日は30分、親から離れてグズグズ泣いて、山に入る直前で気持ちを立て直してスタートして、そんな経緯で山登り始めました。S君とほぼ先頭を争うかのように歩いていたんですけど、そこでくっつき虫に一度、結構な量、襲われまして。普段のT君なら、もうくじけるんですよ。あと「先生取って」って。「もう嫌だ、取って」って。そこが今日は環境が違うってということと、自分で一旦気持ちの整理ができてたっていう強みがいい方に行って、「くっつき虫ついたね」って、まずT君と一旦2人で止まってみて、「ついたね、どうする？」って言ったら、自分ではらったんですね。でも、くっつき虫、はらっても取れないんですよ。で、どうするのかなって思ったら、T君、つまんで取りだしたんです、自分で。はらっても取れないけど、こうしたらどうだろうって、そこでT君が自分で考えて、「こうすればいいんだよ」って私に言って来て。一人じゃ取り切れる量じゃなかったの、「じゃあT君ズボンお願いするね」って、「足は私がやるね」って分担してやったら、T君、もうすごい生き生きとブチブチ自分で取って、自分一人でズボンをきれいにしてました。そこもたぶんこっちが先回りしてはらってやったり、はい、取ってあげるからほらほらってやってしまえばそれまでなんですけれど、いつものT君からは感じられない逞しさがすごく嬉しかったです。

◆エコエデュスタッフ②

なるほど、そうだったんですね。たくましいなー、すごいなーと思って。今日はちょっと冒険チックなコースを選んで行きました。先生から聞いて、ああ、普段とこれだけ違うんだなと思っていたんですが、今日の「特徴を使って遊ぶ」というテーマで、このコースでどんなことが出来るんだろうかって考えてました。調整は出来ると思って様子を見ていたら、子ども達が何も言わなくても釣りは始めるし、地面に埋まっている石をこう触るんですよ。「パタン」って言って。「パタンコ、パタンコ」っていうから、私も「え？パタンコ、パタンコ」って言うと、また別の石を探して、「これもパタンコ、パタンコ」って言って、そうすると他の子もなんか触りたくなくて、触って、「あ、パタンコだね」って。本当に些細な事なんだけれども、こうやって一人ひとりの子が自分で見つけたものを表現しながら遊んでいたというのはとても印象的でした。

ちょっと私が失敗したなと思ったのは、私が頭に飾りを付けていたら、それを見た子が「つけてー」って言うのでつけたんですよ。それはそれで一つの遊びにはなったんですけど、そうすると見つけたものを、何か特徴を見つけて遊ぼうじゃなくて、全部つけたがっちゃうところがあって。そこは、ああ、ちょっと最初にこれはやらない方が良かったなっていうふうに感じました。

そこから、ちょっと、Eちゃんがフワフワを見つけて、雪虫もチクチクする前は気持ちいいので、「触ると気持ちいいかなー？」とかって言うと、一緒に触ったり、じゃあ、ほっぺでやってみようかって言ってやって、なんかお化粧品みたいだねっていうふうに、ちょっとその辺は声をかけながら、遊びに繋げていくという感じでした。でも、本当に普段の活動がこうやって出てるんだなというのを嬉しく思いました。

ここは伸びてるなーっていうところが、皆さんからたくさん聞かれて嬉しいなと思います。運営責任者の先生は見ていて何か印象に残ったことがありますか？

◆運営責任者の先生

そうですね、僕は保護者の人達と一緒にいたのですが、正直、今のお父さんお母さんって、どちらかって言うとちょっと都会派って言うんですかね、あまり自然とか興味が無さそうな雰囲気の方が多いので、今日はちょっと心配していたんですけど。今の子ども達の論点からはちょっとずれるんですけど、皆さん意外と自然育ちの、自然の豊かなところで実は育ったお父さんお母さんも多いうていうのを先程聞いて、意外と山の方に入って行ったら、素直に苺を食べたりとか、葉っぱで驚いてくれたりとかっていうのが目立ったんで、すごい良いきっかけに繋がったと思いましたね。



◆エコエデュスタッフ②

自然育ちの保護者の方が多かったので、今日寒い中でも、ここで止まってとか、ここまたいでとか、結構、無茶振りも聞いていただいて、本当にありがたかったですね。

では、もうちょっとここをのばしていけるんじゃないかっていうところはあるますか？

◆園長先生

私達が公園とかで、「ほら、空青いね」とか「お日様キラキラしてるね」っていうのは、親御さんでも、普通の保育士でもやっていて、そこまである程度限界というか。でも最近、しかけなくても子どもが気づける。子どもの方から気づく力とか、感じる力が高くなって来ているかなっていう、なんかそれはすごく感じるんですよね。子ども達、1回か2回の体験じゃなくて、やっぱり1年通してやって来ているから、培って来てるっていう感じで。だって葉っぱの匂いを嗅ぐとかなんて

というのは、2歳の子達が普通できるのかなみたいな。こういう活動をしているから、子どもは葉っぱを見たら、ああそうだ、匂い嗅いだことがあるとか、こすってみたことがあるっていうので、そこから自分でやってみようとなると思うので。

ただ、1、2歳の子がどこまでできるのかなっていうのは考えたりするのですけれど。それこそ子どもの持っている力ってすごいなって。私達、日頃の中でね、0、1、2歳は、赤ちゃんじゃないよって思うんですけど。子どもの力をやっぱり信じて待つっていうか、今日も危なかったり、つい手を出してあげてしまったりとかっていう気持ちをぐっと押さえて見守るっていうことがあるからこそ出来るっていうのかな、なんて思うので、そこを持ちつつ、自分達、保育士の大人がちょっと学んでいくっていうことが、これから伸ばしていけるところなのかな、なんて思うんですけど。

私が今までずっと保育の中に入って来て、まあ乳児さんの経験っていうのはそんなにたくさんある訳じゃないんですけど、1、2歳の子達はこんなに感じることができるんだということに気づきました。

◆エコエデュスタッフ②

遠藤先生、今の、1、2歳にどこまで気づけるのかみたいな、その辺ってどうですか？

◆遠藤先生

なんとなくですね、他の授業との関連でも最近思っていることなんですけど、目で見て、耳で聞いて認知するっていう力って、たぶん2歳、3歳で、言葉をたくさん上手に話せるようになってくる時に伸びていくと思うんですけど。0、1、2歳の特権と言うか、0、1、2歳の時、なんか言い方がうまく出来ないけれど、言葉が育つよりも前だからこそ出来る感じ方として、触ることと、匂いを嗅ぐことと、口に入れることなのかなっていうふうに思いながら、今日のお話も、本当そうなんだ、すごいそういう気がするなと思いながら聞いていました。

目と耳と、鼻と口と手は、なんか区切りがあるような気がして、それは何かっていうと、鼻と口と手は、その物質に触るとか、例えば匂い分子が鼻に入るとか、味のする物体が口に入るとか、そういう直接触れないと身体に入って来ない刺激をキャッチする力だと思うんですね。目と耳は実は離れてても聞こえるし、離れてても見えるんだけど、鼻口手は離れていたら絶対にキャッチ出来ないものであって。今日見てて、子どもたちは地面に近いよね、みんな小さいからって思いながら見てたんですけど、本当、その地面との近さっていうものを一番活かして、世界を理解

出来るのはもう本当に小っちゃいうちなんだなというような気がしたんです。なんか全然上手く言えてないんですけども、本当にたぶんそういうところで気づく力を最大限に発揮している人達が、この今日、森に来てくれてた1歳、2歳の子達、園でお留守番の0歳の子達も、もちろん、もっとそうだと思うんですけども、そうなんだなというふうに思いました。

触らなくても分かるようになる前の人達みたいな感じですかね。育つごとに、見て聞くことでだいが分かるじゃないですか。でも、大人でもね、触ったり、食べたり、楽しいですからね。無くなっちゃうものでは無いと思うんですけど。

◆エコエデュスタッフ②

結構積み重ねが、ねえ、ここに来てということですよ。

◆遠藤先生

普段からやっているから、本当に直接触ることが、子どもの安心の拠り所になる。自分自身の身体の方で自分の安心を生み出せてるなっていうふうに思ったんですね。慣れているなというか、自然の中で遊んでいるなというふうに思いました。

◆エコエデュスタッフ②

さっきの、危ないところを自分でこう判断出来るようになっていく。この積み重ねがあって、自分で安全っていうところを作り出せている。

◆遠藤先生

触っていて重心をキープ出来ていけば、落ちこちないし、転ばないっていう、そういうようなことでしょうかね。足が滑らないとか。たぶん、一番手の平と足の裏で触れていると思うので、自然に。そこが、安全の基盤みたいな。

◆エコエデュスタッフ②

それって、普通の公園だと出て来にくい部分かなと思いました。ある程度の危険がある中で、自分が環境に関わりかけて、安全かどうか確かめていくってことですか。

◆遠藤先生

危険だけど危険じゃないっていうのがミソですかね。アスファルトのところでスライディングすると結構痛いっていう。遊木の森だと、かなりスライディングしてもニコってなる。ああ、いいなっていうふうに思いましたね。

◆先生⑦

でもきっと、両方経験しているから分かるのかな。

◆遠藤先生

だと思います。

◆先生⑦

普段の公園でエコエデュさんが積み重ねてくれた活動があったからこそ、今日の姿に繋がってて、今日急にここにポンって放り出されたら、それこそみんな触るとかまではいけないし、歩きにくければ抱っこを求めちゃうしで。ちょっと違うぞが、ちょっと面白いぞになれたのは、両方経験してるから良くて、積み重ねと経験と、どっちも大事だなと思いました。

◆園長先生

今日、なんせ親から離れられたっていうのがね、すごいなって。もっと泣かれるかなと思ったし、それは当然だし、まあ早い時点で離したっていうのが良かったのかもしれないんですけど、その先に行ったら、草っ原があって、親よりもそっちがあったか！みたいな。だから、それだけ子ども達にとってすごい魅力的な自然だったんだと思います、親よりも。だって絶対泣くもん。だってちょっと行けば居るんだから。

◆エコエデュスタッフ⑫

そうですね。

◆先生⑦

あともっと出来るのかなとか、もっと知識というか、子どもは知識と思って無いと思うんですけど、エコエデュのスタッフさんが公園で遊ぶ時の「蜂が出た時にはお地藏さんのポーズだよ」って言うと、もう子ども達の中で浸透しているんですね。

今日、年齢もあるかもしれないんですけど、私、2歳児さんと一緒に引率したんですけど、最初に公園でエコエデュスタッフが言った、赤い葉っぱを見つける度にみんな注意しあっていたんですよ。「あそこにあるよ」とか、落ちてるのを見つけると「これ、触っちゃだめだよ」「赤い葉っぱがあるよ」って、言い合って進んで行ってたので、そういう自然の知識って、知ってる人から直接聞いたり、自分が見たりして身に付けていくのかなと思っていて、それがもしかするとそんな

たくさんじゃなくても、言葉と実物とが一致して、自分の日常にストンって来るの
かなって。これが今日で終わりじゃなくて、赤い葉っぱ見る度に、これ触っても大
丈夫かなとか、すぐに手にしないとかっていう知識は増えていくのかなと思って。
そういうのはやっぱり保育士は専門じゃないので、なかなかそこまで教えてあげ
られないので、エコエデュさんの方で、そういう危ないことばかりでなくても、例
えば面白エピソードとかでも、これ、こんなふうに葉っぱで遊べるんだよとか、こ
の実は、例えば銀杏とか、匂いがキツイけど食べるとおいしいんだよとか、そうい
うことを教えてもらえると、子ども達の糧にはなっていくのかなって。今日の葉っ
ぱのことは、誰も本当に触らなくて、2歳は。見るとすぐ注意し合って「赤いのあ
った！」とかって。

◆エコエデュスタッフ②

一回ね、そのものを見せたんですよ。そうしたら、もうそこから実物を目の前に
したら。でも「それ、触っちゃダメ」って言うのは、たぶん普段そう言ってるから、
すぐそれが理解出来た。

◆先生⑦

2歳だったからかもしれないんですけど、でも1歳さんも「蜂に会ったらお地蔵
さん」は分かって来てるんですよ。だから、この子って分かるのかなで言うのをや
めてしまうんじゃないかって、繰り返し

◆園長先生

とりあえず伝えていくっていうのが大事なんだね。

◆先生⑦

子どもは大人が思っている以上に知識をどんどん蓄えてて、自分もたぶん小さ
い時に名前は分からないんですけど、しゅって長めの葉っぱをぶちっと抜こうと
して手が切れちゃったことがあって、そういう経験をしていると、子どもを連れて
遊びに行く時に「これ、そのまま引っこ抜いたら手切れちゃうよ」って教えてあげ
られる。でも、そういうのって痛みとか、危ないって分かると手を出さなくなるじ
ゃないですか。なんか、そういうことを0~2歳の子ども達に、せっかくこういう
自然体験している中で、どれくらいお知らせしていったらあげられるのかなって。な
んか分からないじゃなくて、きっとどこかでは繋がる時が来る。

◆エコエデュスタッフ⑫

ああ、そうですね。

◆先生⑦

そういう自然のことを自然の専門家さんたちから教えて頂けると、なんかもっと伸びるかもしれないなって思いました。

◆園長先生

最初に公園遊びに行った時に、蜂のお地蔵さんを教えてくれたじゃないですか。蜂ってまあ居るけれども、めったに身近でお目にかからない。なので、子ども達どうかなって思ったけど、すごいあれは浸透して「蜂さん来たらどうする？」って言うとお地蔵さんになる」「目をつぶる」とか、あとは、風の吹いた公園に行った時に、子ども達が自然に背中を向けて目をつぶったっていうの。「こういう風が吹いたら目をつぶるよ」って教えてもらってたんだけど、それを体験しなかったら、たぶん「目をつぶるよ」なんて言われてても繋がらなかったかもしれないですけど、たまたまね、突風が吹いて来て、うわー、大丈夫かな？なんて思ったら、子ども達が目をつぶったり、背中を向けたりするのを見て、いや、なんかすごい繋がっていきんだなって。こんな小さい子たちけれども、言っていた事が繋がるんだなと思って。なので、分かるのかな、分からないのかなではなくて、やっぱり伝えていくことが、先々の何かに繋がっていくのかなーなんて思いましたね。

◆エコエデュスタッフ①

若い先生方、もし言い足りないことがあったら、ぜひお願いします。

◆エコエデュスタッフ②

聞きたい事は聞けた感じですかね。

◆遠藤先生

すごく面白く聞かせて頂きました。すごい、いいなって思います。あ、ひとつ、ラーニングストーリーなんですけど。これね、あ、聞いたことありますか？例えば何でしょう、ドキュメンテーションとか、ポートフォリオとか、そういった仲間の一つで、ニュージーランドの保育実践の中でたぶん生まれて来たものです。

この形式で記録していくことのメリットを本当に一言で言うのですね、これ、書くのが簡単なんです。エピソード一つでいいので、例えば上のチェック欄に、今からこの四角いところに書くエピソードで、どれ当てはまってるかなっていうのを、全部当てはまってる話だったら、全部チェックしたらいいですし、一つだったら一つで良くて。で、その下に簡単に書いて、それで下のところにも簡単に書く

と書きやすいのでね、こういう形式でなってる。

出来れば、継続的にやっていくのであれば、いつも同じフォーマットで簡単に記録をし続けていくと面白いかなというふうに思います。時間をかけずに、もう直感で書いて、それで、この写真がこの話にすごいフィットしてると思ったら、写真もプリントアウトしてピッて貼っておいて、それで 記録していくと、いろいろ後で見直した時に気づくことがあるかなというふうに思います。

◆エコエデュスタッフ②

なかなかね、出来そうで、私たちは出来るだろうかというところです。

◆遠藤先生

そうですね。でもですね、みんなで一緒にやったことなので、案外ペちゃっと書いたら、大体それを読んだらみんな分かるので、そこが大事だと思うんです。ああ、あの時のこれねっていうのは大体分かると思うので。なので、恐れず、ちょっと肩肘張らず気楽に書いたら、みんなで共有出来るものになると思うので。お願いします。

◆エコエデュスタッフ②

今日、本当は最後振り返りの中で、午前中の遊びが、午後の保護者と一緒に遊びの中にどんなふうに生きてるかなっていうことを共有しようと思ったんだけど、ちょっと皆さん寒そうだったので、早く終わっちゃったんですけどね。

なんとなく、午前中と午後のところが結びついてたような、結びついてなかったような。その辺、ちょっとどうだったのかなっていうのだけ、すいません、私、聞きたい。

◆エコエデュスタッフ①

1~2歳は、アオキのトンネルのところへ行ってなかったの、やっぱり他の子が行っていたのを見てここ面白そうだから入ってみようって感じで、午後行っていた子が多かったです。午前の遊びが、午後にすごいつながっていたかという、あまりつながらなかったなと思っていました。



◆エコエデュスタッフ②

先生方、午後を見ていかがでしたか？

◆先生③

午後はもうとにかく各家庭で、親子で遊ぶってということがメインになっていて、午前の活動云々じゃなくって、また違う遊びになっていたなって思いました。

◆先生⑦

たぶん年齢的に午前にあれだけ集中して魅力的な活動をしたら、一旦親元に戻してご飯食べた時点で、子どもの集中力が切れてきて。本当に魅力的な場所なので、それを活かして、さあ次って持っていきたくなるのは分かるんですけど、子ども目線になってみると、午前中のあれでもう充分だなって、親元に行って安心して、あとはちょっとダラダラみたいな感じだったのかなと思いました。

ただ、遊びを子どもから親に、「こんなことが出来る」「あんなことが出来る」って伝えるのは、もしかしたら少なかったかもしれないですけど、この空間で楽しめるんだよってことは伝わってはいえると思うんですね。なので、構成的にやっぱり一旦区切った時点で、親元に戻した時点で、子どもはリセットされるかなって。

◆園長先生

そうですね。時間的にね、保育園の生活のタイムスケジュールでは、もう11時がご飯で、12時半が寝る時間っていうふうになっているので、やっぱり最後のところはもう眠くなるのと、機嫌が悪くなるのは当然かなという感じと、一回ご飯で一緒になったので、そこからっていうのはなかなか難しいのかなと思いましたね。

◆エコエデュスタッフ②

なんか親御さんも、親子の時間が午前中は少なかったんで、まあそこで満足して頂けたのかなという気もしました。

◆園長先生

あとは暖かければね、また違ったと思うんですよ。座って、親御さんがのんびり子どもが遊んでるのを眺めることもできたかもしれないし、まあ一緒に遊ばなくても、きっと1歳児さんなんか、あの辺ちよろちよろ、親がいて安心して遊べるっていう姿もあるかもしれないですけど、寒かったから。

◆エコエデュスタッフ②

はい。ありがとうございました。ぜひ次はいい季節にまた。

◆エコエデュスタッフ①

はい。今日はありがとうございました。2年前ですかね、運営責任者の先生に、この自然体験プログラムのプログラム評価というものにご協力をお願いして、その後コロナになってしまって、ようやく今日実現出来ました。ですが、実はすごい心配だったのが、この2年の間にもう子ども達がすごい自然の中で経験してくれちゃっているので、その子ども達にたった2時間のプログラムの中でどのくらい変化が見られるのか予想がつかなくて。正直私としては、ちょっとどうなんですかねって、遠藤先生にも相談したくらいだったんですけども。全然、普段と違った姿が見られたっていうのがすごいな一っと思いました。それはやっぱりお子さん達もすごいですけども、先生方が普段から関わってくださっているからこそ表れたり気づいたりする変化がすごいあるんじゃないかなって思っていて。本当に、鳩の子保育園さんにご協力頂いて良かったなって思っています。ありがとうございました。